

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500237
法人名	医療法人 加茂医院
事業所名	グループホーム やすらぎの丘
所在地	伊万里市大坪甲2269-6 (電話) 0955-22-9131

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年6月23日	評価確定日	平成 20年11月28日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	造り		
	2 階建ての	1階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	6 名	要介護4	7 名			
要介護5	名					
要支援2	名					
年齢	平均	84 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加茂医院、世戸眼科、高瀬歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームやすらぎの丘は、自然に囲まれた閑静な住宅地にあり、自由に散歩できる広い庭には、家庭菜園があり菜園を眺めながら昼食をとる等ゆったりとした時間を過ごす取り組みがされている。室内には、書道、誕生会の写真が飾られ明るい空間づくりがなされボランティアによる、アコーディオン演奏、大正琴、書道、お茶会などの楽しい時間をもうけている。「まごころ、やすらぎ、おもしろい」の理念の下、一人ひとりのペースにあわせた支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価で指摘された点について全体で話し合い、改善に向けての取り組みがなされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行った上で全体で会議を行い、改善点を全員で把握し、サービス向上へ活かす取り組みがなされている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	スタッフ会議を行い、サービス向上に向けて取り組まれているが、2ヶ月に一度の運営推進会議は昨年夏より開催されていない為、市、地域の方、民生委員、家族、事業所側との意見交換がなされる場がない。今後、サービスの向上に活かしていく為にも運営推進会議を開催し、連携を図る体制づくりが望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情は面会時に話しやすい雰囲気作りがなされ、日ごろの健康状態については、毎月の利用請求書送付時に報告を行っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りを開催し地域の方々に参加していただき、認知症の方への理解を深められるよう取り組まれている。又、ホーム開設以来地域行事へ参加し、利用者の作品を出展したり、小学生等の慰問もあり、地域の一員として交流することに努められている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「まごころ、やすらぎ、思いやり」を理念に認知症老人介護の原則を加え事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と認知症介護の原則を朝の申し送り時に唱和し、職員が日々の業務で忘れることなく実施できるように取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りを開催し地域の方々に参加していただき、認知症の方への理解を深められるよう取り組まれている。又、ホーム開設以来地域行事へ参加し、利用者の作品を出展したり、小学生等の慰問もあり、地域の一員として交流することに努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員各自自己評価を行い会議で話し合う時間をもうけている。外部評価は職員全体で理解した上、玄関に掲示し、改善項目は職員間で共有し改善への取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の公民館を利用しスタッフ会議を行い、常にサービス向上に努められているが、今年の夏よりホームの諸事情で運営推進会議がひらかれてない。	○	運営推進会議を開催し地域の方、民生委員、行政、利用者、家族等が事業所と行事や様々な取り組みについての報告や、意見交換ができるように2ヶ月に1度開催できるような取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から長寿社会課の担当窓口へ相談し、サービスの向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当者が利用者の日頃の様子や健康状態については、請求明細書送付時個々に報告している。	○	ホーム全体の状況、職員が変わる時等についても、家族へお知らせする工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員から声かけを行い、双方が話をする機会をつくれ、話しやすい雰囲気づくりをされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はなく、業務上応援で行き来することがある。職員が代わる場合は、ゆっくり話ができる入浴時を利用し、コミュニケーションを十分とり、利用者への不安を和らげられるよう配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員をもうけ、計画をたて積極的に取り組まれている。外部研修は希望者を募り内容に応じて参加者を選定し、研修後はユニット会議で研修報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊万里市地域包括支援センター主催のコミュニティーケア会議に参加し、事例検討会を行ったり、他のグループホームを見学し、困ったときに相談しあえる関係づくりがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学をしたり宿泊体験もでき、納得をした上で利用していただく体制づくりができています。緊急利用の際は、コミュニケーションを十分取れるよう工夫し、職員との信頼関係を築く取り組みがなされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事前に見学をしたり宿泊体験もでき、納得をした上で利用していただく体制づくりができています。緊急利用の際は、コミュニケーションを十分取れるよう工夫し、職員との信頼関係を築く取り組みがなされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他の職員の意見を参考にしたり、利用者やゆっくり関わることで話を十分に聞き、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議等を通して、課題やケアのあり方について話し合いを行い、介護計画に活かす取り組みはされているが、家族、本人の意向を確認し、職員間で話し合いを行った記録が整備されていない。	○	本人、家族の意向、ケアのあり方等について話し合った記録を整備することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は、評価見直しがなされ、現状に即した新しい計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、美容院など、家族の状況に応じて支援がなされ、利用者のその時々々の要望に応じてドライブへ行ったり、利用者が懐かしむ公園でグランドゴルフをしたり、希望に応じた対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じてかかりつけ医へ連絡、相談を行い、母体病院からは、ホームへ来てバイタルチェック等も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方への支援では、随時医師、家族との話し合いを行い、支援のあり方を確認し、職員全体で方針を共有する取り組みがなされている。しかし、マニュアル等の整備がなされていない。	○	今後はグループホームの方針として文章等で明記し、家族等へ説明を行い同意を得ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報事務所で保管され、入所時に個人情報の取り扱いの説明を行い、同意を得る取り組みがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を自発的に行える方が少なく、声掛けを行ったり、一人ひとりの性格を把握し、趣味などを引き出し職員側の都合を優先する事なく支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体の状態に応じて、とろみ食、刻み食を調理師が調理している。利用者の希望のメニューを出来るだけ取り入れ、庭の畑で栽培している野菜を活用している。利用者は調理準備や食後のお盆拭き等、出来る範囲で行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日対応されているが、自分で入浴される方が少ない。タイミングをみて声かけや促しを行い、入浴を楽しめるよう支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間の行事計画を立て、毎月誕生会、つつじ見学等行っている。ボランティアの協力で書道、大正琴、お茶会、アコーディオン演奏、紙芝居等、楽しみ、気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼食を庭で食べたり、毎日散歩を希望される方へはその都度対応し一人ひとりの希望に添った支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の使用はなく、外へ出られる方には職員と一緒についていくなど鍵をかけない支援がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いのもと、昼夜の様々なパターンを想定した訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はチェック表にとり記録管理されている。水分の一日摂取量の目安を設け、摂取できるよう心がけている。食事形態も食べやすい形状で、ミキサー食、キザミ食、とろみをつけ一人ひとりの状態に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに座る位置決め、気のあう方と会話を楽しむようセッティングされ、食後はソファをうまく利用して足を伸ばして座れるようにじゅうたんを敷き、団欒の場をもうけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたタンス等を使用され、写真、作品を飾ったり、お仏壇も持ってくるなど、居心地よく安心して過ごせるよう工夫されている。		